

組合員を混乱させる分裂策動を許さないバス東北本部見解

J R東労組は18春闘を大敗北と総括し、その反省から組合員の声を基にした組合員のための新生J R東労組運動をつくり出してきた。バス東北本部も中央本部と共に、失われた信頼回復のため、職場の問題解決に取り組み、組織の強化・拡大を目指し運動を推し進めてきた。

これまで同じバス職場で働く仲間であるバス関東の組合員とともに、バス輸送の安全確立、防災・減災などの取り組みを互いに持ち寄り、バスフォーラム等で議論を深めることで、バス労働者の地位の向上と待遇改善を目指してきた。今後も同じバスの仲間として前に進んでいかなければならない中で、バス関東の一部の職場が今回の分裂策動に巻き込まれているとの情報に、胸が締め付けられる思いがしてならない。

18春闘の過程でバスは、スト権を確立する議論や投票を行なっていなかったにも関わらず、当時のJ R東労組指導部の情勢の見誤りが引き起こした混乱に巻き込まれ多くの組合員が脱退し、J R東労組に対する不安と不信感が職場を暗く包み込みこんだ時の苦しみを忘れることはない。バス東北でも、これまで築き上げてきた安全で明るい職場が一気に崩壊していく危機感から、会社の不当労働行為を世間に明らかにするべきだとの声があがったことを思えば、棚倉分会の組合員の悔しさも理解できなくはない。しかし、バス東北本部として組織の現状を認識した上で、本当にそのたたかい方を全組合員が望んでいるかを真剣に議論を重ねた結果、たとえ今が苦しくても、新しいJ R東労組に生まれ変わるといふ方針を打ちだした中央本部・東北三地本と連携し、職場の団結を強化し難局を乗り越え、明るい職場を取り戻すことを目標に意思統一してきた。

この混乱のなか、一番悩み苦しんでいるのは組合員である。分裂策動者による棚倉問題を前面に押し出し本部批判を繰り返す行為は、弱い立場のバスを利用しているように見えて仕方がない。組織の指導部が判断を誤れば、一番困るのは職場の組合員であることは18春闘のたたかいからも明らかである。組合員が何を望んでいるか、それは安心して働ける職場、明るい職場の実現であるのは明白である。労働者が団結するのは生活のためであり、職場の者同士を敵と味方に色分けすることではない。職場に組織破壊行為という無用な混乱を持ち込み、組合員を分裂の道へ導くことを断じて許すことはできない。

バス関東の仲間に訴える！組合員を置き去りにした分裂策動は、これまで職場で奮闘してきた組合員に対する裏切り行為であり、明らかな組織破壊である。組合員を本当に守れるのか、何が真実なのかを見極め、一時の感情や他人の動向に惑わされることなく賢明な判断をするべきである。共にたたかい抜こう！

バス東北本部は、自らの主義・主張を正当化するために分裂策動を行っている者を許さないたたかいを、全組合員でつくり出していくことを明らかにし、見解とする。

2020年2月7日
東日本旅客鉄道労働組合
ジェイアールバス東北本部